

ピメトロジンを含む新規育苗箱施用剤 ウンカ類に対する防除効果と イネ縞葉枯病の抑制効果を紹介します

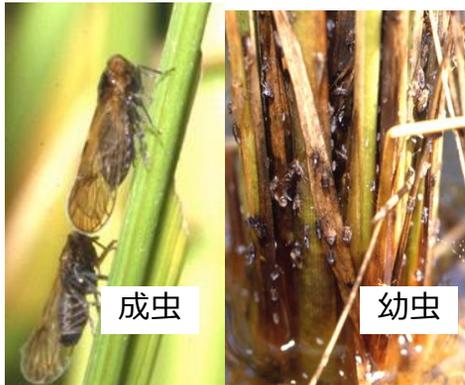
ピメトロジンを含む新規育苗箱施用剤の播種時処理

- 鳥取県で問題となる3種のウンカ類に対して実用的な防除効果を示します
- ヒメトビウンカが媒介するイネ縞葉枯病の発病抑制効果も十分にあります
- 薬剤の移植当日処理と効果&残効期間は同じです

汁を吸ってイネを枯らすウンカ類

トビイロウンカ

セジロウンカ



ウイルス病を
うつすウンカ類

ヒメトビウンカ



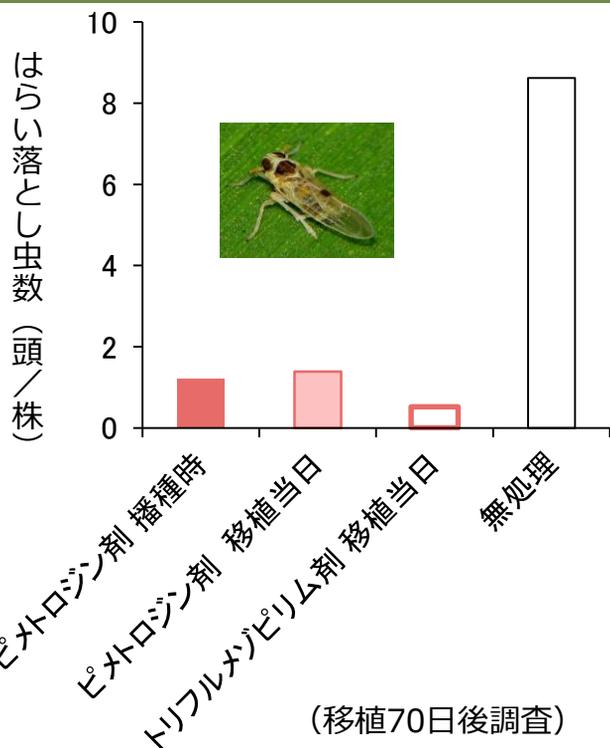
【イネ縞葉枯病】

【トビイロウンカの被害】

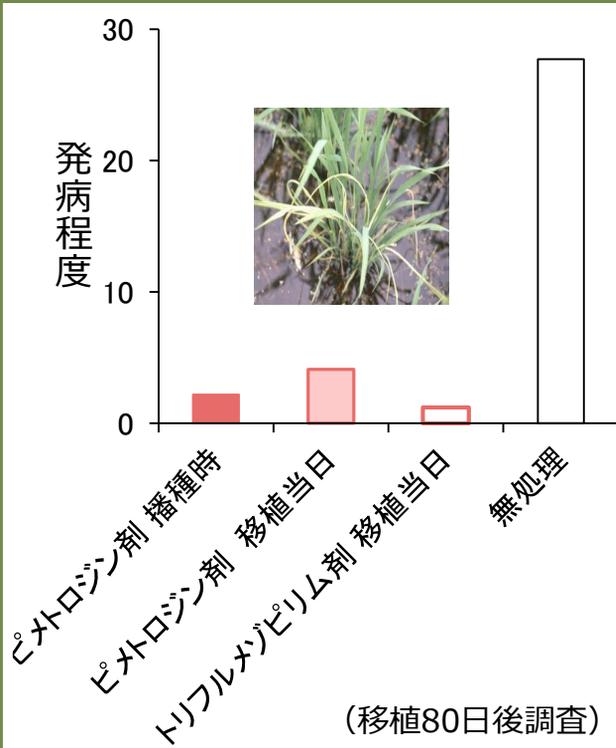


ピメトロジンを含む新規育苗箱施用剤（は種時覆土前処理のウンカ類に対する防除効果およびイネ縞葉枯病の発病抑制効果

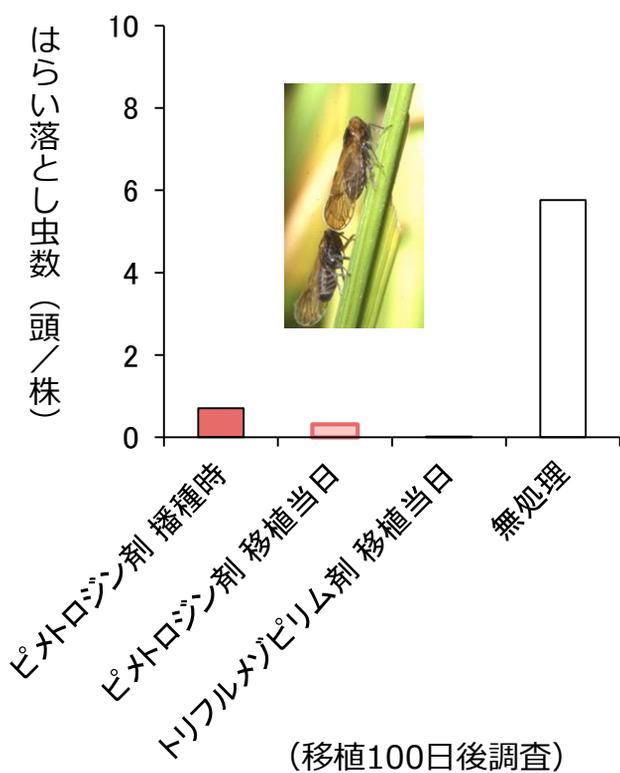
ヒメトビウンカ(多発生)



(参考)イネ縞葉枯病の抑制効果



トビイロウンカ(中発生)



利用上の注意点

- 2021年3月現在、ピメトロジンを含む育苗箱施用剤で播種時処理が可能な薬剤として、ヨーバルパワーEV箱粒剤、ヨーバルUG箱粒剤が農薬登録されています(ウンカ類以外の適用病害虫は最新の情報を確認して下さい)。
- 薬量が不足すると防除効果が低下するので、規定量を均一に散布して下さい。
- イネ縞葉枯病による被害が問題となる地域では、耕種的防除法(秋～早春のほ場の耕うん、早春の畦畔除草等)を併用してください。
- トビイロウンカが大量飛来した場合、本剤のみでは十分に防除出来ない場合もあるので、本田での殺虫剤散布を行ってください。